平成３０年度　学校経営計画　足立区立西新井中学校

学校長　　髙倉　教人

１　学校教育目標

１よく考え知性を磨く　　【知性】
２学びあい品性を高める　　【品性】
３すすんで体力をつける　　【体力】

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・確かな学力の定着と「生きる力」を育む学校。 ・生徒が安心して楽しく学び、豊かな人間性を育む学校。 ・保護者や地域と連携、協力した教育活動を推進し、保護者、地域の信頼に応える学校。
○児童・生徒像	・心豊かでたくましく、社会性を身に付けた生徒。 ・意欲的に学習に取り組み、基礎学力を身に付けた生徒。 ・自らのよさを発見し、主体的に行動できる生徒。（自尊感情や自己肯定感を育む）
○教師像	・常に生徒を第一に考え、学校教育の課題に積極的に取り組む教師。 ・授業改善に意欲的に取り組み、「わかる授業」を実践できる教師。 ・教育的愛情や使命感に溢れ、生徒や保護者、地域に信頼される教師。

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

＜学校の現状＞

生徒数が 600 名を超え、教育活動全体においてより活気のある学校になっている。また、ここ数年の学校正常化の取組みが実を結び、年々、落ち着いた雰囲気の学校となり、授業や学校行事・部活動・ボランティア活動等にも意欲的に取り組み、様々な活動場面での生徒の活躍がより目立つようになってきている。

＜前年度の成果と反省＞

【前年度の成果】

・生徒の生きる力の育成や不登校の未然防止いじめ防止に向け、魅力ある学校づくり、「一人一人の生徒が輝き、笑顔あふれる学校」「地域に愛される学校」の実現を目指した。そして、その実現のために様々なことに取り組むことができた。

・生徒の基礎学力の定着を図るため、毎朝、国数英の朝学習に取り組ませることができた。また、週一回実施した朝学習まとめテスト（基礎学力定着テスト）に合格できなかった生徒を週４回実施する放課後補充教室に参加させることができた。

・部活動でも活躍した生徒が多数いた。工作部はロボットコンテストで全国大会、関東大会に出場、水泳部は関東大会出場、吹奏楽部は都吹奏楽コンクール、マーチングコンテスト、アンサンブルコンテストでそれぞれ金賞を受賞した。また、バドミントン部は都大会でベスト８まで勝ち進み、野球部、ソフトテニス部、卓球部、陸上部がそれぞれ都大会に進出した。

・学校とＰＴＡ、地域の関係は良好で、西新井中の生徒のために様々な活動に取り組むことができた。特に、今年度はＰＴＡ主催の第１回西中祭を開催し、開かれた学校づくり協議会やおやじの会、同窓会、教職員の協力で大成功に終わらせることができた。また、本校生徒がボランティアとして多数参加し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める気持ちを育むことができた。

・開かれた学校づくり協議会と学校・生徒・保護者が一体となって、美化ボランティア活動を進めることができた。

【今年度の課題】

・昨年度の区学力調査の全体の通過率は 56.1％で目標値の 55％を上回っているが、基礎学力の定着という面ではまだ不十分である。

・わかる授業を実践し、生徒に学ぶ楽しさを感じさせるためには、生徒の主体的な学びや対話的な学びを意識した授業改善をしていかなければならない。

・生徒の家庭学習の習慣を定着させるために、家庭学習ノートを活用した取組を行ったが、家庭学習の定着という面ではまだ不十分である。

・自尊感情の醸成に関しては、生徒の自己評価アンケート（全 18 項目）で平均値が 74.1％（5 月）、72.9％（10 月）となり、2 回とも目標の 70％を上回っているが、「私は今の自分に満足している」「私は自分のことが好きである」という設問に対しては肯定的回答がどちらも 50％前後と低かった。

４　重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		28	29	30	31	32
1	基礎的・基本的な学力の定着			○	○	○
2	小中連携の推進と授業改善	○	○	○	○	○
3	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応		○	○	○	○

５　平成３０年度の重点目標

重点的な取組事項－１	基礎的・基本的な学力の定着

Ａ　今年度の成果目標	**平成３０年度区学力調査 目標通過率（学校平均）**
・平成３０年度の区学力調査において目標通過率を達成させる。 ・分かる授業を実践し、生徒に学ぶ楽しさを感じさせる。	全体平均→６０％以上 国語→７０％以上　数学→５０％以上 英語→６０％以上 **＜達成基準＞** 年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。

Ｂ　前年度の取組み内容

項目	具体的な方策
放課後補充教室と 放課後自習教室の充実	区学力調査の結果分析を基に、補充教室の内容や教材の充実を図る。
教員の授業力向上	教科指導専門員との連携を図り、管理職による授業観察をより効果的にする。また、教科部会を中心に授業の相互見学やその後の協議を日常的に行えるようにする。
朝学習の充実	英語・数学の朝学習を中心に全校体制で実施し、その結果を補充教室に活用する。
家庭学習の充実	家庭学習の手引きを全家庭に配付し、保護者会や三者面談時に有効活用する。
学力ポートフォリオの有効活用	数学の学力ポートフォリオをより効果的に活用した補充教室の実践。

Ｃ　前年度の成果と課題

＜成　果＞
・放課後補充教室を週４回(月･火･木･金)ペースで実施し、年間 80 回程度実施できる見通しである。また、放課後自習教室においても週１回(水曜のみ)ペースで実施し、年間 25 回程度実施できる見通しである。
・教科指導専門員や管理職の授業観察、ＯＪＴ等によって、若手教員の授業力を向上させることができた。
・朝学習を中心にして、コンテスト(基礎学力定着テスト)、放課後補充教室、家庭学習のそれぞれの取組に十分な関連をもたせ、生徒の学習に対する意欲を向上させることができた。
・家庭学習ノートの有効活用と家庭学習の取組に対する家庭との連携を強化することができた。
・数英の教科部会では学力向上に向けた取組内容や授業内容に関する意見交換も積極的に行うことができた。
＜課　題＞
・区学力調査における３教科平均の通過率は伸びているが、基礎学力の定着という点ではまだ不十分である。
・区学力調査の学習意識調査の「宿題がない時でも家で勉強する」という設問の肯定的回答は、58.8%で区平均を 7.1%下回っている。
・家庭学習の習慣を定着させるための家庭学習ノートの提出率が月を追うごとに下がっている。
・生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、何よりも教員がわかる授業を実践し、学ぶ楽しさを感じさせられる授業にすることが大切であるが、まだ不十分である。

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙「平成 30 年度　学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－２	小中連携の推進と授業改善

A 今年度の成果目標	達成基準
・足立スタンダードを意識した授業改善への取組の推進 ・小学校３校との連携の充実	年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
足立スタンダードを意識した授業の実践	年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。	授業の「ねらい」と「振り返り」を実践できるようにする。
ＰＤＣＡサイクルを活用した授業改善の実践	年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。	授業改善に関する管理職の聞き取りの回数を増やし、その時々の課題と取組内容を確認できるようにする。
小学校３校との連携のより一層の充実	年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。	日常的な交流を促進する。

重点的な取組事項－３	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応

A 今年度の成果目標	達成基準
・教育活動全体を通して生徒の自尊感情を醸成する。 ・不登校生徒の減少	・生徒の自尊感情に関するアンケートの肯定的評価を平均 80%以上にする。 ・不登校生徒数を３%以下にする。

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
生徒の自己肯定感を高める。	生徒の自己評価アンケートの「自分に満足している」「自分のことが好き」という設問の肯定的評価を 55%以上にする。	教育活動全体の中で、自分の大切さや他の人の大切さを感じられる活動を増やしていく。
不登校を未然防止するための魅力ある学校づくりに努める。	年度末の教職員の肯定的評価を 80%以上にする。	目標とする学校像の実現に向けてオール西新井の体制で取り組めるようにする。
ＳＣ、ＳＳＷや関係諸機関との連携を強化し、対応策の深化を図る。	年度末の教職員の肯定的評価を 90%以上にする。	毎週木曜の教育相談部会の情報交換を基に、不登校生徒全員のより具体的な支援計画を考えられるようにする。